

「千の風になったあなたへ」

佐伯 悦子（山口県宇部市／71歳 女性）

あれから八か月、お父さん、あなたは今何をしていますか？
季節はめぐり、あなたの大好きな春がやってきました。

中川の土手にはつくしがいっぱい、ふきのとうにタラの芽、こしあぶらにわらびにぜんまい、魚屋さんにはやまめはまだですが、鮎やますごも並んでいます。元氣だったらきつと山に川に海にと今頃は駆け回っていることでしょうね。でも、あなたのことです。きっと自由に大空を飛び回っているのでしょう。だって、好きな所へ飛んでいけるんですものね。

つい先日、友達と山口の龍蔵寺に行った時の事です。滝の登り口に私の好きなシャガの花が山すそを真っ白に染めてびっしりと咲いていました。その陰に隠れるように小さなお地蔵さんがひっそりと立っていました。いつものようにお父さんが、「おい、ここにお前の好きな花がいっぱい咲いちよるぞ！」って教えてくれたような気がして、懐かしさと淋しさがこみあげてきて、涙がこぼれてしまいました。

今、私はいとこの美代さんと水彩画教室に通い始めました。六月の発表会に向けて、あの地蔵さんとシャガの花を描いています。

これからも四季折々季節が変わる度にあなたとの思い出が蘇り、まだまだいっぱい涙を流すこともあると思うけど、二人で歩いた野山の風景を一枚一枚絵にして部屋中あなたとの思い出でいっぱいにしたいです。

お父さん、いずれ私もあなたの元へ行く日が来ます。

それまで高い空の上から私と子供達、そしてあなたの大切な孫達をずっとずっと見守って下さいね。

千の風になって。